



徳川家臣団の子孫たちが全国から参集！ 平成の「徳川家臣団大会」 in 駿府を開催

2015年の徳川家康公顕彰
四百年記念事業のプレイベントと
して、平成の「徳川家臣団大会」
in 駿府を開催しました。4月16
日には本大会のほか昼と夜の部
の交流会を含む3部構成企画
で、また翌日4月17日には徳川家
康公の命日に合わせた「家康公」お
墓参りツアーを実施しました。

当大会は全国から家臣団の子孫
の方々が集まるほか、多くの歴史
ファンも詰めかけ、大変な盛り上
がりを見せました。

交流会「昼の部」

本大会を前に、駿府城公園東
御門で昼の部の交流会を行いま
した。235名の参加者はとろろ
汁や安倍川餅など静岡ならではの
の食事をとりながら、東嘉会の木

遣りや清水芸妓による踊りを楽
しみました。



・東嘉会による静岡木遣りの披露

本大会

静岡市民文化会館大ホールで
開催した本大会は、徳川みらい
学会第1回講演会との併催で、
1,200名が参加。会場は満員
となりました。

岡崎市で活躍中のグレート家
康公「葵」武将隊による歓迎アト
ラクションで始まり、徳川宗家18
代当主の徳川恒孝氏や後藤康雄
会頭、田辺信宏市長が歓迎の挨拶

を行いました。

続いて、徳川家臣団の子孫たち
で組織されている5団体「柳営
会」「牧之原開拓幕臣子孫の会」
「開陽丸子孫の会」「万延元年遣
米使節子孫の会」「咸臨丸子孫の
会」から参加された80名の子孫の
方々を称えるとともに、各団体の



・徳川家臣団子孫の会の各会長から活動内容を紹介

活動内容を紹介しました。

基調講演では静岡大学名誉教
授の小和田哲男氏に、「徳川家臣
団の固い絆（家康を支えた武将
たち）」というテーマで講演いた
だきました。



・講師は戦国時代史研究の第一人者である小和田氏

『家康公には「忠臣の子は忠臣
になる」という信念があり、たと
え敵将に忠義を尽くした人物の
子供であっても、その忠義心を信
じて、殺さずにむしろ老中にまで
抜擢した。また、三方ヶ原の戦いで
家臣の1割を失ったことでは、「宝
の中の宝といふは、人材にしくは



なし」という人材観を生む事になり、その後家臣を大事にしていたことが徳川家の繁栄に繋がった』と語りました。

次いで、静岡文化芸術大学教授の磯田道史氏をコーディネーターに、3名の家臣団子孫が「新しい時代を切り開いた徳川の家臣たち」をテーマにトークセッションを行いました。

〈コーディネーター〉



静岡文化芸術大学教授
磯田 道史氏

〈パネリスト〉



東京農業大学客員教授
榎本武揚の曾孫
榎本 隆充氏

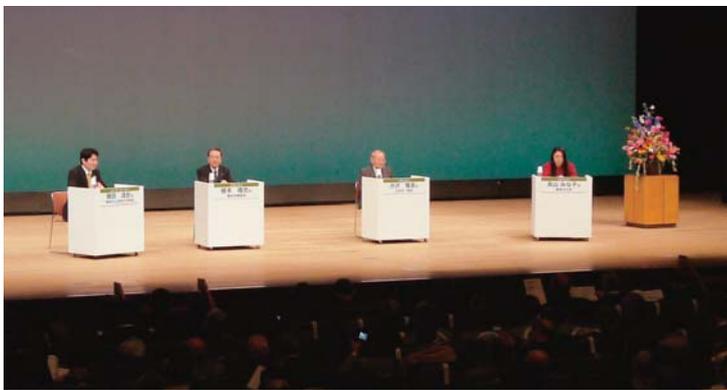


静岡文化芸術大学客員教授
榎本武揚の曾孫
榎本 隆充氏



フリーランスライター
勝海舟の玄孫
高山 みな子氏

『江戸幕府は、明治維新後の近代化の中で取り残された古いものではない。むしろ幕府の統治技術を用いた家臣団の動きがあったからこそ新しい社会がつけられてきた』という話から、「家柄ではなく能力で人を評価した幕府によって開花された」、「新しい国づくりにのために海外を視察し見聞を広めた」など家臣団である先祖たちが近代日本をどう形成していったかが話されました。



• 徳川家臣団の功績やその実態を話すパネリストたち

交流会 「夜の部」

本大会終了後の夜の交流会は浮月楼で開催しました。家臣団の子孫たちほか200名を超える参加者は、しらすや桜海老、マグロなど静岡産の食材を使った料理や静岡の地酒を堪能しながら、家臣団の功績について和やかに懇談しました。また最後には慶喜公も楽しんだ打ち上げ花火を再現し、大会を彩りました。



• 乾杯後、会場内は家臣団の話題で盛り上がりました。

お墓参りツアー

翌日4月17日は徳川家康公の

命日であり、68名の参加者でお墓参りツアーを実施しました。久能山東照宮で営まれた御例祭の様子を見守ったほか、三保松原の見学を行いました。久能山東照宮で祀られている神廟に、今でも家康公が眠っていることをアピールできました。



• 神廟の前でガイドから説明を受ける参加者

プレイベントである当大会が盛り上がりを見せることで、翌年開催の家康公四百年祭に向けての期待も高まってきました。

(文責…企画広報室)